

大宮橋

西本宮（旧称：大宮神社）の参道、大宮川を渡る橋。この川は、西宮神社の創建伝説に重要な役割を担っている。7世紀、流浪人・ことのみたちうしまるがこの地に社を建て、大己貴神と運命的な出会いを果たし、神宮となったという。唐崎の北西約5キロの川沿いに社殿を建て、水の波紋が涅槃経の一節を奏でるという。現在、西本宮の周囲には水路が巡らされ、水の流れる音が絶えることはない。

現在の花崗岩の橋は1669年に架けられたもので、以前の木橋を忠実に模しており、構造上不要になった柱もほぞ穴を再現している。下流には他に2つの橋が架かっている。いずれも重要文化財に指定されているが、大宮橋は其中でも最も大きく、精巧に作られている。